

第1回 湖西市総合計画審議会 会議録（要旨）

開催日時	令和元年11月11日（月）15：00～17：00
開催場所	湖西市健康福祉センターおぼと3階 研修室
委員	（出席者）10人 （事務局）5人
内 容	
1 開会	事務局 企画政策課長があいさつ、資料確認
2 委嘱状の公付	影山市長から委嘱状を各委員へ交付
3 市長あいさつ	<p>市長：審議会委員の引き受け、本日の出席を感謝する。</p> <p>令和3年度からの総合計画を来年度にかけて策定していく。総合計画では市の基本方針、まちづくりの姿を定め、これを基に福祉や公共交通などの様々な計画にブレークダウンしていく。湖西市がどのようなまちをつかっていくのか、どのようなまちを目指すのかという根幹となる基本方針をつくるため、各分野からご意見をいただきたい。どのようなまちを目指すためにこのようなことをするといった具体的な内容がわかるものをつくりたい。みなさんには、こういうまちを目指すために、このようなことが必要であるなど、意見をいただきたい。</p> <p>8、9月に市民参加のワーキンググループを開催し、湖西市の目指すまちの姿、キャッチフレーズの素案がつけられた。これらも参考にご意見を交わしていただきたい。</p> <p>また、市では「職住近接」を掲げている。働くところは多くあるが、働いている人が住んでいる場所は、周辺の浜松市や豊橋市である。湖西の人口6万人に対して昼間人口は7万人と約1万人の差がある。市内で稼がれたお金が周辺他市に納税や買い物等により流出しているという現状である。これを少しでも改善することで、市民サービスに使えるお金が増え強化に繋がると考えている。</p> <p>行政として目標を定め進めていくことが責務であり、委員のみなさんから各分野の視点よりご意見をいただき総合計画をつくりあげていきたい。</p> <p>別に立地適正化計画も同時進行で策定されている。湖西市に住みたいのに調整区域や農地などの課題により家を建てられないという意見を多くいただく。法律などの制度をすぐに変えることは難しいが、どのようにすれば土地の活用</p>

がしやすいか、人が住みやすくなるかなども一緒に検討する必要がある。

この2つが両輪となり市の10年後、20年後、50年後までこれらの計画を反映させながら時代に合わせて修正をし、湖西市の未来のまちづくりを進めていければと考えている。各委員には積極的に前向きな意見をお願いしたい。

4 会長、副会長の選出

池上委員を会長に選任、竹島委員を副会長に選任

5 諮問

諮問書を市長から会長へ提出

諮問事項

- (1) 基本構想に関する事
- (2) 基本構想に基づく基本計画の策定に関する事

【諮問書を提出後、市長は退席】

6 会議

池上会長ごあいさつ

池上会長：この会場で市の会議に携わるのは2回目である。10年ほど前に多文化共生プランを策定したとき以来である。湖西市とは、アドバイザーを務めた外国人集住都市会議や座長を務めた三遠南信地域連携ビジョンのプラン改定により間接的に接点があった。基礎自治体の総合計画について座長を務めるのは初めてであり、個別の知見については各委員の方が持っていると思う。

また、私の出身は北海道で現在住んでいる場所も市外である。しかし、仕事などの関係により、他から見た当地域の良さはよくわかっていると自負している。これらより私の視点を生かした調整役や意見を出していただくための潤滑油のような役割を期待されていると認識しており、ファシリテーターとして審議会を進めていきたい。

池上会長：議事に沿って進めていく。はじめに事務局より説明をお願いする。

事務局：次期総合計画の策定方針について（Powerpoint資料）の説明

市民ワーキンググループ検討結果について説明

池上会長：人口の変動、税収の減少、税収が減ることにより今まで維持できていたことが維持できなくなるなどの現実を前に我々は取捨選択をする必要があるという話であった。事務局の説明に対して質問等があればお願いしたい。

加藤委員：2040年問題の前に2025年の団塊の世代が後期高齢者に達する問題になぜ触れないのか理解できない。

企業では、2年間の年度計画をたて1年に絞る。これらをもとに5年の中期計画や10年の長期計画をつくる。また半期で修正計画を行う。パラダイムシフトが起きている世界で3ヶ月、早ければ1ヶ月で変化が起きている。このような時代に市は、予算を組む際に年度計画などをつくっているのか。

池上会長：企業と行政の大きな考え方の違いが出ている。

企業の立場からすると10年、20年先をほわっと考えても意味がないのではないかということかと思う。これに対して、市は年度計画をもっているのか事務局回答をお願いしたい。

事務局：現行の総合計画では、財政部門と調整を行いながら3年単位の実施計画を組み、それを事務事業評価などを基に毎年見直しをかけローリングさせている。

池上会長：年度単位で計画を立てて検証はしていないのか。

事務局：3年のうち最終年度は、毎年新たに組み直している形となる。

加藤委員：年度ごとの収入が明確ではないのになぜ予算が組めるのか。

事務局：財政部門で財政計画により税収等も含め見通しを立てている。それを基に計画を立てている。

加藤委員：企業が納める税金は毎年変動する。もう少し精度を上げてはどうかということをお願いしたい。

事務局：税収については、税務課にて毎年企業に聞き取り調査を行い、出来る限り精度を高めるようにしている。

池上会長：推計で翌年度の予算を作成し、施策を展開しているということで良いか。

事務局：そのとおりである。

加藤委員：2040年のことを大きく語るのも良いが、年度計画もしっかりしていただきたい。

池上会長：2040年を考えての十数年というスパンは、根拠のない絵空事になってしまうのではないか。もう少し短いスパンで総合計画をつくる必要があるのではないかという問題提起である。大枠について議論する余地があるのか伺う。

事務局：分野により考え方が違う。インフラ関係については長期的な視点で考える必要がある。ソフト的な施策は短いスパンでの効果検証を行う必要があると考える。

加藤委員：KPI を設定し、指標を明確にしなくてはいけない。

事務局：KPI は設定する方向で検討している。

池上会長：KPI は、議会で評価されるということで良いか。

事務局：議会もそうであるが、進捗管理としても活用する。

竹島委員：バックキャストの意味を教えてください。

事務局：2040 年のあるべき姿から現時点で何をすべきかを検討する方式である。

池上会長：フォアキャストとバックキャストがある。フォアキャストは、現状を基にした積み上げ式、バックキャストは、2040 年にこうありたいという姿を描き、それを実現するために、5 年後にこれをしなければいけない、そのために 1 年後にはこれをしなければいけないという形で落とし込んでいく考え方である。

7 ワーキング

池上会長：当初の予定では、まちの将来像（キャッチフレーズ）について話し合っていたが予定であったが、先ほどの議論の中で根幹的な問題提起もあったため、キャッチフレーズの議論にこだわる必要もないと考える。自由な意見交換の場としたい。グループ割について事務局案をお願いする。

事務局：グループ案について説明（Aグループ 4 名、Bグループ 5 名）

【ワーキング】

Aグループまとめ

- ・ 定住人口の増加、昼夜間人口の差の解消
 - ・ なぜ定住人口が増加しないのか。
→まちに魅力がない（生活インフラが整っていない）
 - ・ 高齢者、子ども、外国人それぞれにとって必要なものが違う。
高齢者＝公共交通機関が整っていない など
外国人＝人が集まる場所がない（パーティーをする場所がない） など
 - ・ 介護の問題、若者にかかる負担を減らす方法を考える必要がある。
 - ・ 行政がやっていることが見え難い。
 - ・ 前進している感じがなく、スピード感がない。
 - ・ 未来が見えにくい。
 - ・ 現行の総合計画では、具体性がなく夢も見えない。
- ◆ これらを改善することは、外部への PR にも繋がり定住促進にも繋がることである。

Bグループまとめ

- ・人口減少対策が必要である。（若い人が魅力を感じるまちづくりが必要）
- ・若い人が定住しなくては人口は増加しない。
 - 産婦人科、不妊治療を充実など制度面での魅力も必要
（不妊治療補助の対象年齢が、周辺市町の方が高い場合それを機に人口流出の可能性あり。近隣市町相当の助成が必要）
- ・市の中学生アンケートで湖西市に住みたくないと回答した子の理由として働く場所がないという回答が多くあった
 - 働く場所が多くあることが認知されていないことへの対策
 - Uターン者数を増加させる。
 - Uターン者数が増加しない、定住しない原因の根幹は、働く場所が少ない、企業が認知されていないからではない。就職した人も市外に住んでしまっている。（市内のある企業では2年前の新採職員（大卒）が全員市外に住んでしまったという事例あり）
- ・住居を建てられる場所を増やすために土地利用の見直しが必要
- ・市内企業に就職した人が、なぜ市外に住んでしまうのか調査の必要がある。
- ◆行政は市民以外にアンケートを送るすべがないが、市内企業の協力を得ることができれば調査が可能。なぜ住まないのか、市の弱みをしっかりと分析する必要がある。

8 その他

事務局から事務連絡

9 閉会